

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名						
柔道整復学12						
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験
柔道整復学科・夜間部	2年	2期	原田 光就			○
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10
科目概要						
下肢の損傷・疾患のうち、股関節部の軟部組織損傷および疾患、大腿骨骨幹部骨折、大腿部の軟部組織損傷および疾患を中心に学習する。この部の損傷は、重大な障害を後遺する場合も多く、医接連携が重要となる。本講は、治療および判断に重点を置いた知識の習得を念頭に展開する。						
目標						
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	柔道整復師として外傷の対応を正しく行えるようになるため、下肢損傷・疾患のうち、股関節部軟部組織損傷および疾患、大腿骨骨幹部骨折、大腿部軟部組織損傷、その他注意すべき疾患への対応時に求められる必要な知識を習得すると共に、臨床において重要な技術と患者様を管理する態度を身に付ける。					
到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1. 股関節周辺部の疼痛や運動障害から損傷や傷病を予測できるようにする。 2. 乳幼児や思春期に特に見られやすい疾患を想起出来るようにする。 3. 大腿骨周辺部の付着する筋の運動を離解し骨折で起こる骨片転位の方向を予測できるようにする。 4. 大腿部で起こる筋損傷の施術を行えるようにする。 5. 筋損傷後の後遺症を離解し予防できるようにする。					
履修に必要な予備知識や技能						
外傷への処置や指導管理は人それぞれ異なります。患者様にあった治療をしていくにあたり、患者様への対応、人を思う気持ちを大切にしてもらえたらと思います。						
教科書・参考書						
「柔道整復学理論 第6版」(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)						
受講上の注意						
不明な点は、授業内でも授業外でも構わないので担当教員に確認してください。 授業に必要なものは、必ず授業前に準備をしておいてください。なおスマートフォン等は鞆にしまってください。						
成績評価方法						
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他 (合計)
評価割合 (%)	90		10			100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物	
第1回	股関節部の軟部組織損傷および疾患1 鼠径部痛症候群、弾発股ほか(不定愁訴のものや原因が多くある障害は鑑別をしっかりと行い特定できるようにする)			p370-p372	筆記用具・教科書	
第2回	股関節部の軟部組織損傷および疾患2 梨状筋症候群、股関節拘縮(梨状筋拘縮における疼痛を理解する。股関節周辺で多い拘縮である屈曲拘縮を理解する)			p372-p373	筆記用具・教科書	
第3回	股関節部の軟部組織損傷および疾患3 小児の股関節疾患(ペルテス病、大腿骨頭すべり症ほか)			p374-p375	筆記用具・教科書	
第4回	股関節部の軟部組織損傷および疾患4 大腿骨頭壊死症、変形性股関節症			p375-p377	筆記用具・教科書	
第5回	大腿部の解剖と機能(骨片転位と筋の作用を理解する) 大腿骨骨幹部骨折1			p377-p378	筆記用具・教科書	
第6回	大腿骨骨幹部骨折2(整復、固定と後遺症を理解する)			p378-p380	筆記用具・教科書	
第7回	大腿部の軟部組織損傷1 打撲(患者さん又自分の実例を踏まえて理解し治療を実践できるようにする)			p380-p381	筆記用具・教科書	
第8回	大腿部の軟部組織損傷2 肉離れ(患者さん又自分の実例を踏まえて理解し治療を実践できるようにする)			p381-p382	筆記用具・教科書	
第9回	大腿部の注意すべき疾患・総合復習			p383	筆記用具・教科書	
第10回	定期試験					
実務経験と本講義との関連について						
柔道整復師として接骨院、救急指定医療機関に勤務、また開業時の実務経験をもとに症状、治療法、固定法、後療法について話をします。						
メールアドレス						
harada-t@nihonisen.ac.jp						